

2012年度 研究成果報告会

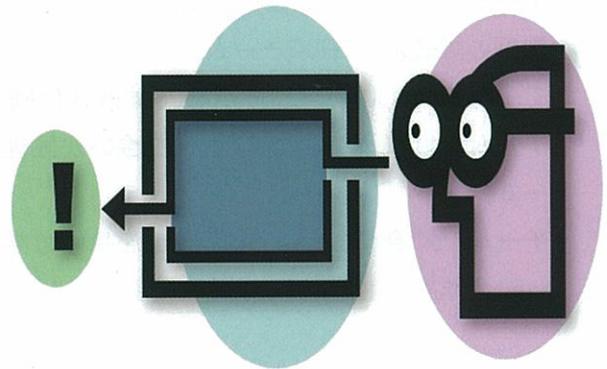
文部科学省私立大学
戦略的研究基盤形成支援事業研究プロジェクト

「新しい映像環境をめぐる映像
生態学研究の基盤形成」
(平成23年～27年)

2013.

4.30 (火)

ロフト2: 18:15~
新座キャンパス
6号館3階



主催共催:

立教大学現代心理学部

Tel 048-471-7149

心理芸術人文学研究所

Tel 048-471-7251

日時：2012年12月22日(土) 13:30～19:00

場所：立教大学新座キャンパス6号館 N636教室(ロフト2)

ドゥルーズ・知覚・身体

情報資本主義、管理社会、生政治に取り囲まれたわれわれの身体、
知覚に何が起きているのか、ジル・ドゥルーズの思索を掘り起こしながら考える

発表者

江川 隆男 (哲学者・首都大学東京 助教)

1958年生。著書に『存在と差異—ドゥルーズの超越論的経験論』(知泉書館, 2003), 『死の哲学』(河出書房新社, 2005), 訳書にジル・ドゥルーズ『ニーチェと哲学』(河出文庫, 2008)がある。来年2013年2月に新刊予定。

佐々木 中 (法政大学 非常勤講師)

1973年生。著作に『定本 夜戦と永遠』上・下(改訂増補 文庫版, 河出書房新社, 2011), 『切りとれ、あの祈る手を』(河出書房新社, 2010)等がある。

廣瀬 純 (龍谷大学 経営学部経営学科 准教授)

1971年生。著書に『シネ・キャピタル』(洛北出版, 2009), 『蜂起とともに愛がはじまる—思想/政治のための32章』(河出書房新社, 2012), 訳書にアントニオ・ネグリ『未来派左翼』(NHK ブックス, 2008)等がある。

堀 千晶 (早稲田大学 非常勤講師)

1981年生。共著に『ドゥルーズ キーワード89』(せりか書房, 2008年), 『ドゥルーズ 千の文学』(せりか書房, 2011)がある。訳書にセルジュ・マルジェル『欺瞞について』(水声社, 近刊)等がある。

松本 潤一郎 (立教大学 兼任講師)

1974年生。共著に『ドゥルーズ—生成変化のサブマリン』(白水社, 2005), 『ドゥルーズ/ガタリの現在』(平凡社, 2008年), 『ドゥルーズ 千の文学』(せりか書房, 2011年) 訳著にピーター・ホルワード『ドゥルーズと創造の哲学 この世界を抜け出て』(青土社, 2010)等がある。

司会

宇野邦一 (立教大学 現代心理学部映像身体学科 教授)

1948年生。著書に『ドゥルーズ 群れと結晶』(河出書房新社, 2012), 『アメリカ、ヘテロトピア』(以文社, 近刊), 訳書にドゥルーズ/ガタリ『アンチ・オイディプス』(河出文庫, 2006), ジャン・ジュネ『判決』(みすず書房, 2012)等がある。

哲学者ジル・ドゥルーズ（1925-1995）は、数々の著書の中で、行動的図式に収拾されない潜在的な知覚・身体のあり方を問題化し概念化していた。このシンポジウムでは、『感覚の論理学』に示唆されたような触覚的視覚、そして『シネマ・時間イメージ』から『消尽したもの』にいたってますます明らかになる視覚と聴覚の断裂・非統合とともにある創造という問題系を一つの焦点にしたい。ガタリとの共著にもしばしば現れる「知覚しがたいもの」、「器官なき身体」をめぐる身体論もまた同じ問題系のなかにあつて、現代社会に生きる身体の状態と、それに敏感に反応する芸術表現を考えるうえで、多くの貴重な示唆を残したのである。このような問題系において改めてドゥルーズを解読し、これを起点として、身体、知覚、芸術表現を新たな文脈で再考しようとする。

プログラム

13h30-14h00	問題提起／宇野邦一
第1部	(司会：堀千晶)
14h00-14h30	報告／松本潤一郎：また消えるために——幾つもの召命
14h30-15h00	報告／江川隆男：器官なき身体と超越的感性について
15h00-15h30	質疑応答
15h30-15h45	休憩
第2部	(司会：松本潤一郎)
15h45-16h15	報告／廣瀬純：未定
16h15-16h45	報告／堀千晶：無知の砂漠——皮膚・補綴・ダンス
16h45-17h15	報告／佐々木中：ジル・ドゥルーズにおける身体と政治 ——その美的決定（ドグマティック）
7h15-17h45	質疑応答
17h45-18h00	休憩
第3部	(司会：宇野邦一)
18h00-19h00	質疑応答

お問い合わせ：心理芸術人文学研究所 TEL 048-471-7251／現代心理学部事務室 TEL 048-471-7149

このシンポジウムは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 研究プロジェクト「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」（平成23年～平成27年度）の一環として行われます。

講演と対話

「知覚・身体・アート」

映像生態学への提言

佐々木正人 (ゲスト) 東京大学大学院教育学研究科教授

×宇野邦一 (聞き手) 立教大学現代心理学部映像身体学科教授

2012年11月27日(火) 18:15~20:15

立教大学新座キャンパス6号館 N636教室

入場無料 どなたでも参加できます

生態心理学、アフォーダンス理論の研究をリードする佐々木正人教授とともに知覚と身体の諸相を再考し、身体表現を見つめる視覚に何が起きているかを問う

講師：佐々木正人

1952年生まれ。現在は東京大学大学院教育学研究科教授であり、本学現代心理学部映像身体学科において兼任講師もつとめている。著書に『アフォーダンス—新しい認知の理論』『ダーウィンの方法』（ともに岩波書店刊）「レイアウトの法則—アートとアフォーダンス」（春秋社）などがあり、生態心理学の観点から、芸術の諸分野に対しても斬新なアプローチを続けている。



問合せ先：心理芸術人文学研究所 tel 048-471-7251, 現代心理学部事務室 tel 048-471-7149

このシンポジウムは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成23年～27年）の助成を受けて行います

Jocelyne Montpetit

病める舞姫



Jocelyne Montpetit
La Danseuse Malade

ダンス上演およびトーク

病める舞姫

2012年6月16日(土) / 16:00~18:45

立教大学新座キャンパス6号館 N623教室(ロフト1)

入場無料

Jocelyne Montpetit

ダンス上演およびトーク

病める舞姫 La Danseuse Malade

日本で現代ダンスを学んだ後、カナダで独自のダンス表現を追及し、数多くのソロ作品を創作してきたJocelyne Montpetitが、ニジンスキーに捧げる『牧神』、大野一雄に捧げる『Nuit/Nacht/Notte』に続いて上演した『病める舞姫』(2011年)は、偉大な三人のダンサーに捧げる三部作の最終作である。土方巽の著作『病める舞姫』に触発された第三のダンス作品は、日本ではじめて上演される。上演後には、対話形式の講演会をおこない、作品の創作過程について、現代のダンス表現の行方についても考えたい。

日時

2012年6月16日(土) / 16:00~18:45

- 16:00~17:00 / Jocelyne Montpetitダンス上演『病める舞姫』(テキスト朗読:フランチェスコ・カピターノ 照明:曾我傑)
- 17:15~18:45 / トーク『踊る身体の行方』(聞き手:宇野邦一)

場所

立教大学新座キャンパス6号館 N623教室(ロフト1)

入場無料

土方の身体に対する思考の根底にはあの「ひびわれ」(「ひびが入って形成されたからだ」)がある。私も自分の「ひびわれ」から始めて、この作品をつくりあげた。私の『病める舞姫』によって、土方の世界と共振しながら、私自身の身体、心理、子供時代を掘り下げようとした。時間と空間をつらぬく秘密の糸とともに形成されるこの身体の教知れない切り子面をさぐろうとした。死者たち、精神的障害児、病者たち、あの偉大な教師の舞踏的エクリチュールを形作るすべてのものに会おうとした。それはダンスの様式にかかわることではなく、むしろ身体を問う方法であり、身体を変えながら魂を舞台に乗せる力であり、私にとってそれが彼の教えだった。(『病める舞姫』に関するモンペティのテキストより)



Jocelyne Montpetit (ジョスリーヌ・モンペティ)

グロトフスキー、田中泯の下で身体表現、ダンスを学んだ。ついで土方巽、大野一雄に師事した後、カナダで、主にソロのダンス作品を創作、上演してきた。ニジンスキーの手記や、土方巽の書物などから想を得た作品が高い評価を受け、カナダ(フランス語圏)で年間の最優秀作品に選考されたこともある。カナダ国立演劇学校教授、ケベック大学およびローマ国立ダンスアカデミーの客員教授を務めてきた。本年1月から6月まで、カナダ・ケベック州の東京アーティスト・スタジオに招聘されている。

聞き手:宇野邦一(現代心理学部映像身体学科教授) 通訳:佐藤歩(心理芸術人文学研究所特別任用研究員)

問合せ先

心理芸術人文学研究所(048-471-7251)、現代心理学部事務室(048-471-7149)

会場アクセス:立教大学新座キャンパス(〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26)

- 東武東上線(地下鉄有楽町線相互乗り入れ)利用 / 「志木駅」下車 スクールバス約7分(運行時間12:30~19:00、運賃無料)、徒歩約15分
または、南口西武バス利用(清瀬駅北口行または所沢駅東口行・「立教前」下車)約10分
- JR武蔵野線利用 / 「新座駅」下車 スクールバス利用約10分(運行時間7:30~20:00、運賃無料)、徒歩約25分
または、南口西武バス利用(志木駅南口行き・北野入り口経由・「立教前」下車)約10分

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」

2011(平成23)年度 研究報告書

立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所

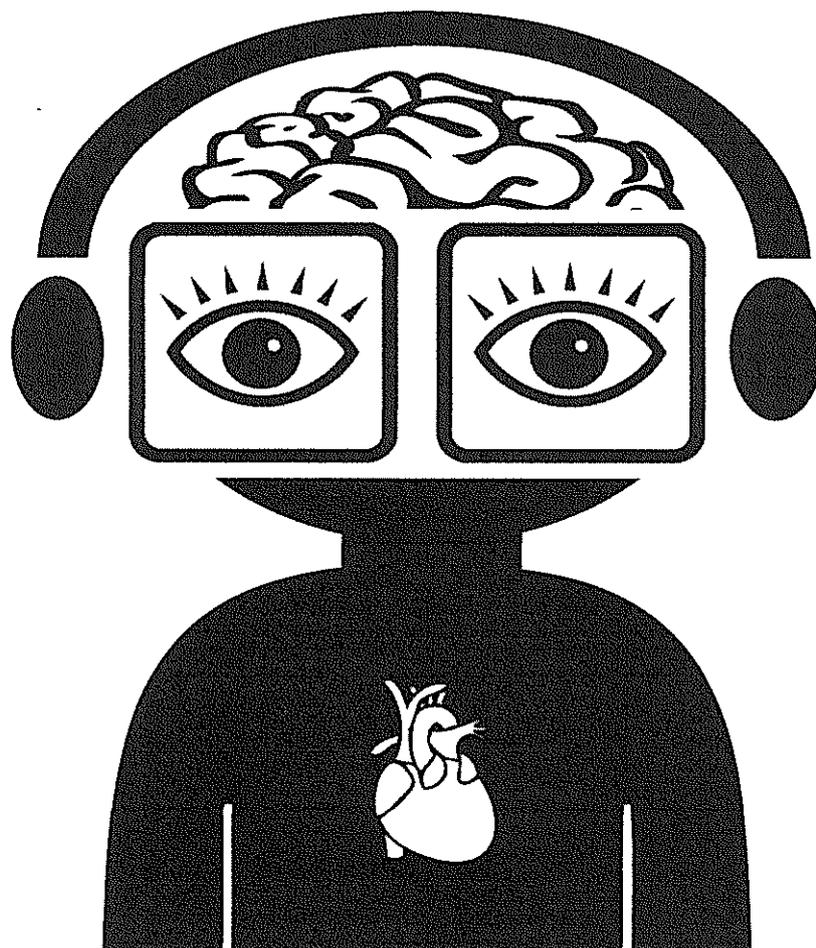
2011(平成 23)年度 研究報告書 目次

チーム1：新しい映像環境がもたらす心理的影響の評価	
研究進捗状況報告書	1
1) 製作した映像コンテンツ	2
2) 映像の心理的評価尺度の開発	6
3) 大型ディスプレイに対する最適な観視距離の測定	16
4) 3D映画の視聴と3Dゲームのプレイが心身に与える負担・ 疲労の計測	20
5) 映像と「ことば」の関係	26
チーム2：新しい映像環境がもたらす映像体験の臨床的・教育的評価	
研究進捗状況報告書	35
1) 描画における臨床心理学的効果に関する展望 —描画行為に内在する身体的自己拡張感の検討	36
2) 動きを表す描画に向けられる臨床心理士の視線 —身体運動図式の読み取りと関連する視知覚の分析	37
3) (資料) 描画における臨床心理学的効果に関する展望	i (3頁)
チーム3：新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究	
研究進捗状況報告書	38
1) 映画の奥行き表現と立体装置としての映画館	ii (6頁)
2) 報告書：公開研究会「映画の第四次元—溝口健二と「深さ」	39
チーム4：新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究	
研究進捗状況報告書	42
1) 「第4の探求」	43
2) 報告書：公開講演上映会「ビデオ映像の哲学」	47
3) 報告書：公開講演及びワークショップ「ダンスとデジタル映像を通じて 未知の身体を探求する」	52
(付録)	
研究メンバーの関連業績一覧	57
研究メンバーリスト	63

立教大学現代心理学部 私立大学戦略的研究基盤形成支援

「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」

2011 年度 研究報告会



日時 2012年2月22日(水) 15:00 - 17:00

会場 立教大学新座キャンパス 6号館3階 ロフト2教室

対象 本プロジェクト学内外研究員、心理芸術人文学研究員、
本学教職員、学生

主催 心理芸術人文学研究所 共催 立教大学 現代心理学部

問合せ先 心理芸術人文学研究所 tel 048-471-7251

現代心理学部事務室 tel 048-471-7149

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
立教大学現代心理学部付属心理芸術人文学研究所：

「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」

2011年度 研究報告会

プログラム

- ～開会の挨拶～ 本プロジェクトについて～ 研究代表者：芳賀繁教授
- 「スポーツ競技に対する3D撮影の方法と分析」 佐藤一彦 教授
- 「新しい映像環境がもたらす心理的影響の評価」 芳賀繁教授
- 「動画像系列に知覚される事象の同一性に関する実験的研究」 鈴木清重助教
- 「描画における臨床心理学的効果に関する展望」 大石幸二教授
- 「映画の奥行き表現と立体装置としての映画館」 中村秀之教授
- 「映像生態学と身体論の交点」 宇野邦一教授

質疑応答：ディスカッション

～閉会の挨拶～ 現代心理学部付属 心理芸術人文学研究所所長 前田英樹教授

+++閉会后+++ 佐藤一彦教授による 4K 映像 デモンストレーション

以上

立教大学公開講演会

ダンスとデジタル映像を通じて未知の身体を探究する

講演およびワークショップ



デジタル映像をダンス・パフォーマンスに果敢にとりいれ、映像と身体の相互作用を通じて、身体とは何かをとらえなおすという実験的な試みを、ニューヨークで続けているダンサーの Koosil-ja (クシルジャ) 氏に、その実験の概要を紹介していただき、映像と身体の関係性をいかにとらえるかという問題に関して、新たな思考と表現の可能性を探ります。同氏とともに活動する音楽家、メディア・アーティストのジェフ・マターズ氏もお呼びして、講演会では実演をとまなうワークショップも行います。

Koosil-ja (クシルジャ) 氏 / ダンスカンパニー「koosil-ja/danceKUMIKO」主宰

大阪生まれの韓国人であり、1981年からニューヨークにおいて Merce Cunningham (マーサ・カニングハム) の下でダンスを学ぶ。「Wendy Perron Dance Company」に所属した後、1986年ダンスカンパニー「Dance KUMIKO KIMOTO」を設立し、独自のダンス活動を続けている。ニューヨークの主要なパフォーマンス・スペースにおいて、またドイツ、オランダ、メキシコ、ターキー、イタリア、シンガポール、ベトナムなどで作品を発表してきた。2004年 Bessie Award を受賞。

Geoff Matters (ジェフ・マターズ) 氏 / 作曲家、メディア・アーティスト

コンピューター・インターフェイス、脳波測定などを応用した音楽表現に取り組んでいる。

宇野 邦一 / 立教大学現代心理学部映像身体学科教授 司会

日時 : 2012年1月10日(火) 18:15 ~ 21:00

場所 : 新座キャンパス6号館2階 N623教室(ロフト1) 入場無料 予約不要

対象 : 学生、教職員及び一般

主催 : 心理芸術人文学研究所

共催 : 現代心理学部

問合せ先 : 現代心理学部事務室 (048-471-7149) 心理芸術人文学研究所 (048-471-7251)

「ビデオ映像の哲学 ーフェリックス・ガタリとアニメズムー」

■ ゲスト

マウリッツィオ・ラッツアラート氏 (哲学者)

アンジェラ・メリトプーロス氏 (映像作家)

● 2011年10月18日 (火) 18:00 ~ 21:00

● 立教大学 新座キャンパス6号館 3F
N636教室 (ロフト2)



■ 司会

立教大学現代心理学部映像身体学科 教授 宇野邦一

■ コメンテーター

立教大学現代心理学部映像身体学科 教授 田崎英明

■ 通訳

立教大学心理芸術人文学研究所 特別研究員 佐藤 歩

イタリアの哲学者マウリッツィオ・ラッツアラート氏は、情報が大きな役割を占める今日の資本主義の世界を、とりわけ情報、映像、記号の生産や受容という観点から考察しています(訳書に『出来事のポリティクス』)。グローバル化した世界における映像表現が、むしろ現代が忘れつつある身体的な次元に敏感に対応するということを、映像制作にもかかわりつつ、哲学的に考察しています。

これは立教大学現代心理学部における映像と身体にかかわる研究、探求にも多大な示唆をもたらす研究であり、また広く現代社会において映像や情報がどのような変化をもたらしつつあるかを再考する機会ともなりえます。ラッツアラート氏とともに、とりわけビデオ映像の研究制作という面から、共同の探求を続けているアンジェラ・メリトプーロス氏の映像の上映もおこなって、ともに討議します。

対象 ● 学生、教職員および一般
申込 ● 不要(定員178名)
問合せ先 ● 立教大学現代心理学部事務室 Tel: 048-471-7149
立教大学心理芸術人文学研究所 Tel: 048-471-7251